

このディスクの制作手記

平林 直哉

ブラームスの交響曲第4番はドイツ・エレクトローラのLP、E90995を使用したGS-2012（2006年）、フランスHMVの同じくLP、FALP 544を使用したGS-2044（2010年）、2トラック、38センチのオープンリール・テープを使用したGS-2198（2019年）と、3度も復刻している。つまり、このGS-2251は4度めの復刻となってしまった。

ドイツ・エレクトローラ盤のGS-2012を復刻したあと、たまたまフランスHMVのFALP544を聴いたところ、FALP盤では第3楽章冒頭がずれて始まるのに対して、エレクトローラ盤はこの乱れを強引にカットしていたことが判明したのである。曲の出だしが揃わないのは、あのぶるぶると震えるフルトヴェングラー独特の棒の特徴を物語っているものなので、こうした個所を編集するのは、意味があるとは思えない。

オープンリール・テープを使用したGS-2198は自宅のテープレコーダーで再生し、それをマスタリングしたものである。これでも十分に良い音だと思う。しかし、バイロイトの

第9のリマスター盤（GS-2205）を機に、テープを録音スタジオに持ち込み、プロ用の機器でマスタリングの全行程を行うことの利点が明確になったので、今回も同様な方法で音を刷新した。むろん、GS-2198の再プレスも頭をよぎったが、悔いを残したくなかったので、4度めをやらせていただいた（これ以上のことがあるとすると、SACDかもしれない）。

交響曲第4番は1959年にフランス、ドイツで初LP化されたが、国内では同年7月新譜として登場した（東芝音楽工業／エンジェル HA1140）。この時、なぜかジャケットには録音データはなく、日付けのみレーベル面に記されていた。

「ハイドンの主題による変奏曲」は当シリーズ初復刻である。初出は1976年のドイツ・グラモフォンのLP（2535164）で、国内盤は同年6月1日に発売された（ポリドール／ドイツ・グラモフォン MG6004）。